

# グループホームの選択基準

— 個人の選択・集団の選択 —

## How to Choose A Group Home to Live in

小林 月子\*

KOBAYASHI Tsukiko

田草川 祐輔\*\*

TAKUSAGAWA Yusuke

キーワード：グループホーム、情報開示、選択基準、NPO、認知症、生活の質

### 1. はじめに

認知症高齢者のケアの問題は、高齢化の進む日本社会が緊急に対応すべき重要な課題の一つである。2005年11月1日現在における日本の高齢者人口（65歳以上人口）は2,566万人であり、総人口の20.1%を占めている。後期高齢者に限っても、1,161万人（9.1%）にのぼる（総務省統計局による概算値）。認知症高齢者の数は、今後増加するいっぽうである。いわゆる団塊の世代（1947年～1949年生まれの人々）が高齢者の仲間入りをする2015年には、250万人が認知症になると推定されている（厚生労働省の推計）。

認知症高齢者の6割は自宅で暮らしており、介護する家族の負担は大きい。とりわけ、自力で動くことのできる認知症高齢者を抱えた家族の悩みは深い。例えば、徘徊を取り上げてみよう。警察庁の集計によると、2004年1年間で、認知症による徘徊によって死亡したり、行方不明になった高齢者は905人にのぼると報道されている。家族などからの相談や捜索願の件数は23,668件にのぼる（朝日新聞、2005年9月24日）。こうした数字の裏から、認知症高齢者を抱えた家族の悲鳴が聞こえてきそうである。

グループホームは、急増する認知症高齢者の介護の場として、急激にその数を増やしてきた。2000年3月時点では岐阜県下で10にも満たなかったグループホームが、2005年12月1日現在では183にも数を伸ばしており、およそ2000人の認知症高齢者が県内のグループホームで生活している。

人々はこのように急増しているグループホームの中から、どのような基準で「自分が住みたいグループホーム」を探しているのだろうか。数多くのグループホームの中から、一つ一つのグループホームの特徴、ケアの質などについて、よく知らないままやむにやまれず入居を決める場合も多い。しかし、介護の内容、ホーム内での入居者の生活は、ホームによって大きく異なっている。前もって十分にこれらのグループホームの特徴を知っていれば、実際に入居する人の希望に沿ったグループホームを選択するのに大いに役立つはずである。では、人はどのような基準で「自分が安心して暮らせるグループホーム」を探すのだろうか。本論文のテーマは、人々のグループホーム選択の基準を明らかにすることにある。

### 2. 研究方法・対象

一口に「グループホームの選択基準」といっても幅が広い。ここでは、ある特定非営利活動法人

\* 岐阜大学・教育学部・社会科教育講座・教授

\*\* 岐阜大学大学院・教育学研究科（修士課程）社会科教育専修 2年

(NPO法人) と、その関連する地域福祉活動組織が2005年12月に開催した「認知症ケアセミナー」の中で行われたあるグループワークをもとに「グループホーム選択の基準」を考察したい。

### 1) 主催者：NPO法人「校舎のない学校」及び「ふるさと福祉村・西濃」

NPO法人「校舎のない学校」は、保健、医療、福祉及び教育の分野に関わる活動に特化したNPO法人で、2003年4月に発足した。本部は岐阜県揖斐郡池田町にあり、2005年12月現在の正会員数はおよそ40名である。

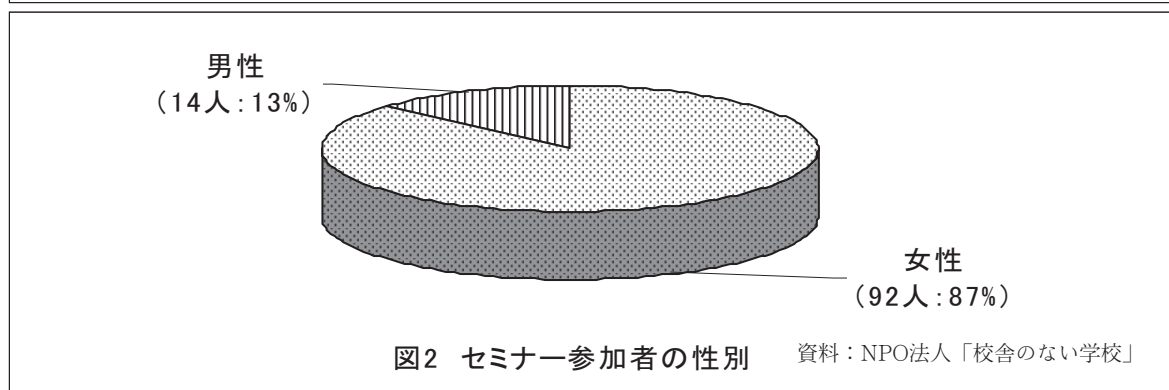
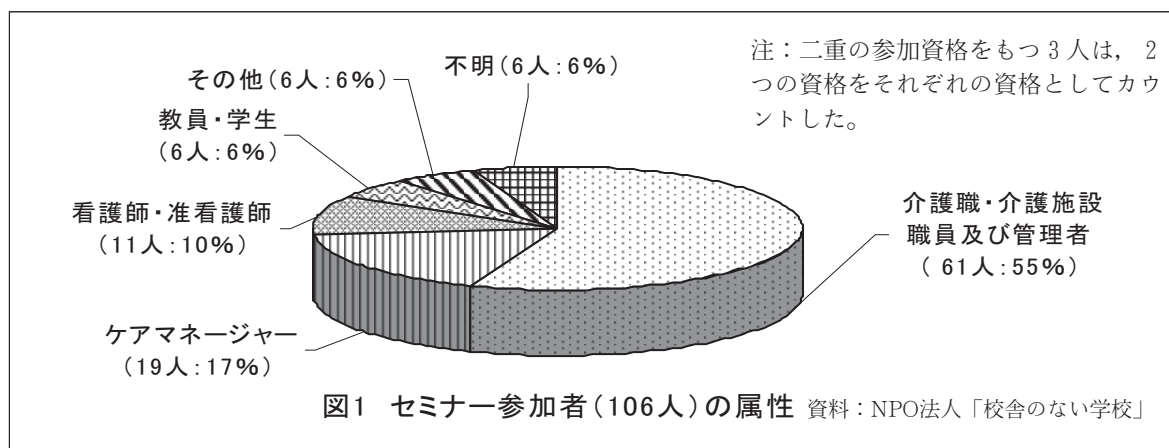
「ふるさと福祉村・西濃」は、岐阜県の指導のもとに2003年5月に発足した地域福祉活動組織の一つである。この組織のねらいは、「山村から、町までどこに住んでも、障害をもって、子どもから高齢者まで自分らしく生き、互いに学べる地域づくり」にある。

この2つの組織は、2005年12月3日に「認知症ケアセミナー」を開催した(場所：岐阜県大垣市のソフトピアジャパン)。午前には認知症介護研究・東京センター室長の永田久美子氏による講演「これからの認知症ケアサービス評価の活かし方」などが行われた。午後からは、セミナー参加者およそ100人が15のグループに分かれて、「安心して暮らせるグループホームを探す」作業を行った。

本論文では、このグループワークの参加者によって発表された報告・資料をもとに参加者のグループホーム選択の基準を分析した。本論文において用いる資料は、全て主催者からの提供によるものである。

### 2) セミナー参加者の属性

セミナーには106名の参加者があり、うち97人がグループワーク「安心して暮らせるグループホームを探そう」に参加した。セミナー参加者の属性は、図1及び図2に示す通りである。



参加者のほとんどが、介護に関連した職業・仕事に就いているか、認知症の介護に関心のある人である。参加者は、職業柄、認知症の介護の実態を日常的に見聞・体験していると考えられる。こうした、いわば認知症介護の専門家たちは、「安心して暮らせるグループホーム」について、日頃の職業的経験を通して、一定のイメージや考え方を有していると想定される。他方、このグループワークの目的は、あくまで一個人としての「自分」が「安心して暮らせるグループホームを探そう」ということにある。参加者の職業的背景に影響されとしても、このグループワークにおいては、あくまでも一個人として「自分が」どのような基準を採用するか、を明らかにすることが求められた。介護業務に従事する専門職としての視点をいったん横に置いて、一人の生活者として、自らがどのようにグループホームを選ぶかが問われた。参加者は、いわば視点の転換を要請されたことになる。

### 3) グループワークの実行

グループワークは以下の手順で行われた。

#### (1) グループニング

グループワーク参加者は、97名であり、これらの人々は15のグループに分かれた。1グループの構成員は6人又は7人である。グループニングは、一つのグループに同じ職種が集中しないように留意されてある。

#### (2) グループワーク参加者が使用した資料等：「参考資料」、CD、パソコン

参加者は、グループホーム選択の基準として「参考資料」を渡され、それについて主催者側から説明を受けた。その「参考資料」の概要は以下の通りである。

すなわち、ここには、1から23の項目が列記されており、その一つ一つがグループホーム選択の基準となっている。(詳しくは、末尾の「参考資料」を参照のこと)

#### グループホーム選択の基準

1. グループホームの名称及び所在地
2. 費用
3. 定員と現在の利用者の属性
4. 利用者の住居
5. 介護の体制・介護スタッフの資格
6. 面会時間の決まり
7. 重い問題行動の利用相談
8. 自分の家具の持ち込み
9. 利用者との調理
10. 放尿行動への対応
11. 入浴回数・入浴時間
12. 外出(徘徊)への対応
13. お金の管理
14. 利用者同士のトラブル対応
15. 利用者の買い物や外出
16. 暴言・暴力への対応
17. 夜間徘徊の対応
18. ケアプランへの家族の参加

19. 病気の時の対応
20. 終末ケア (ターミナルケア)
21. ホームにいる (ある) もの
  - (1) ホームにいる動物, (2) ホームにある植物, (3) 周辺の自然環境
22. 利用者がしていること
  - (1) 園芸, (2) 料理, (3) 手芸, (4) スポーツ, (5) 音楽, (6) 演芸, (7) 趣味, (8) 旅行, (9) あそび, (10) 文芸, (11) 飲茶の楽しみ, (12) 外出, (13) 整容, (14) 地域との交流, (15) 家族との交流, (16) その他 (特徴のあるもの)
23. 特色・大切にしていること

この23項目 (基準) は, NPO法人「校舎のない学校」が2005年1月から3月にかけて, 岐阜県の外郭団体「岐阜県建設研究センター」の委託事業として行ったアンケート調査の項目に対応している。ちなみに, その事業は, 「安心して暮らせるグループホームを探そう」という名称であった。事業内容は, 2005年1月現在, 岐阜県にあった150を超える全てのグループホームに対して, 23の調査項目に各グループホームが回答するという形で行われた調査である。半数以上のグループホームから回答が寄せられた。

少し長くなるが, ここで, その調査と本グループワークとの関連を述べておきたい。

2005年1月から3月にかけて行われた県内全てのグループホームに対するアンケート調査の結果は, NPO法人「校舎のない学校」によってまとめられ, 岐阜県内のホームページにリンクして, 誰もが見ることのできる形で公開されることになった。グループホームに関する情報が公開されていなければ, 「自分や家族が利用したいグループホーム」がどのような特徴・属性を持つものであるかが分からないからである。この調査では, グループホームから寄せられた回答は, よほどの間違い・誤記や故意の誹謗中傷でない限り, そのままインターネット上に載せられた。その情報については, 各グループホームが責任を持つことになる。NPO法人「校舎のない学校」では, 毎月モニター委員会を開いて, 情報管理をしている。こうした情報開示において虚偽の回答をすることも, あるいは回答自体を拒否することも自由であるが, その責任もまた, そうした選択をしたグループホームにあることは明白である。2005年12月1日現在, 岐阜県内には183のグループホームがあり, それぞれのグループホームの情報がインターネット上で閲覧できるようになっていた。こうした情報は, 人々が「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」ための必要条件である。

本論文で取り上げる, 2005年12月3日にもたれたグループワークでは, 参加者は, すでにインターネット上で見ることのできる開示された情報をもとに, 「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」作業にとりかかった。参加者は, いつでもどこでもインターネットで見ることのできるグループホーム情報があることを知らされた上で, どのようなグループホームを, どのような基準で選ぶかを問われることになった。

「参考資料」の他に, 参加者が与えられたグループワーク用の用具はパソコンとCDである。多数のグループホームの一つ一つを2時間以内に検討することは, 時間的にも効率的にも無理がある。そこで, 主催者はあらかじめインターネット上に開示された情報を整理し, 項目ごとに検索できるようなソフトを作成し, CD化した。グループワークにおいては, 各グループにこの検索機能を有したCD及びパソコンが配布・設置された。

(3) 個人としての選択基準を4つ選択する。

ここでは個々人が「自分ならどのような基準でグループホームを選ぶか」を決める。職業柄, さまざまな人たちのグループホーム入所に関して助言したり実際に介護をすることの多い参加者ではあるが, ここではまず, 参加者本人が個人として「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」ため

の4つの条件を選択する。

(4) 次に、グループで話し合いを行い、グループとしての4つの選択基準を決める。

6人あるいは7人の参加者がお互いに自分が重要だと思う基準を出し合い、どうしてその基準を選んだかを説明するなど、討論を重ね、「グループとして重要な」4つの選択基準を決定する。

(5) パソコンを使って、4つの基準に合致したグループホームを検索する。

参加者は、インターネットに掲載されているグループホームの中から、パソコンとCDを利用して、「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」ことが求められた。すなわち、主催者はあらかじめ、インターネットに掲載されている183のグループホームに関する情報を整理して、検索機能を付与したCDを作成した。このCDは先述した23項目（基準）ごとに全グループホームを分類してある。参加者は自らの望む項目や基準や数値を入力することによって、その条件に合致したグループホームを検索することができる。また、条件にあうグループホームがない場合には、条件を変えるなどが必要となる。

(6) 結果発表

15のグループは、それぞれ各個人の出した4つの基準（6人であれば24の基準が出されることになる）が、グループとしてどのような4つの基準に集約されていったか、その過程、理由及び結果を、参加者全員の前で発表・説明する。

### 3. グループホーム選択の23の基準の特徴

このグループワークで用いられたアンケート項目（項目自体が基準となっている）は、利用者やその家族がこれらの項目への各グループホームの回答を見れば、それぞれのグループホームの介護の特徴や入居者のそこでの暮らしがイメージできるように組み立てられている。例えば、入居者の「お金の管理」という項目を取り上げよう。この項目では、各グループホームに「利用者のお金をどのように管理していますか」という問いがなされている。回答には4つの選択肢があらかじめ決められている。（ア：利用者がお金をなくすといけないから、一律に預かっている、イ：本人の管理能力によっては利用者に管理してもらおう、ウ：お金を使う機会がないので持たせていない、エ：その他 [具体的に]）各グループホームは、この4つの選択肢から実際にやっていること（最も近いもの）を一つ選ぶようになっている。

入念に考えられた23の質問項目と、それに対する回答選択肢を詳しく見ていくと、一つ一つのグループホームの介護の特徴・方針のみならず、入居者（それは将来の参加者本人であるかもしれない）の生活が髣髴とされるはずである。「グループホーム情報開示アンケート」については巻末の〈参考資料〉を参考にしてほしい。

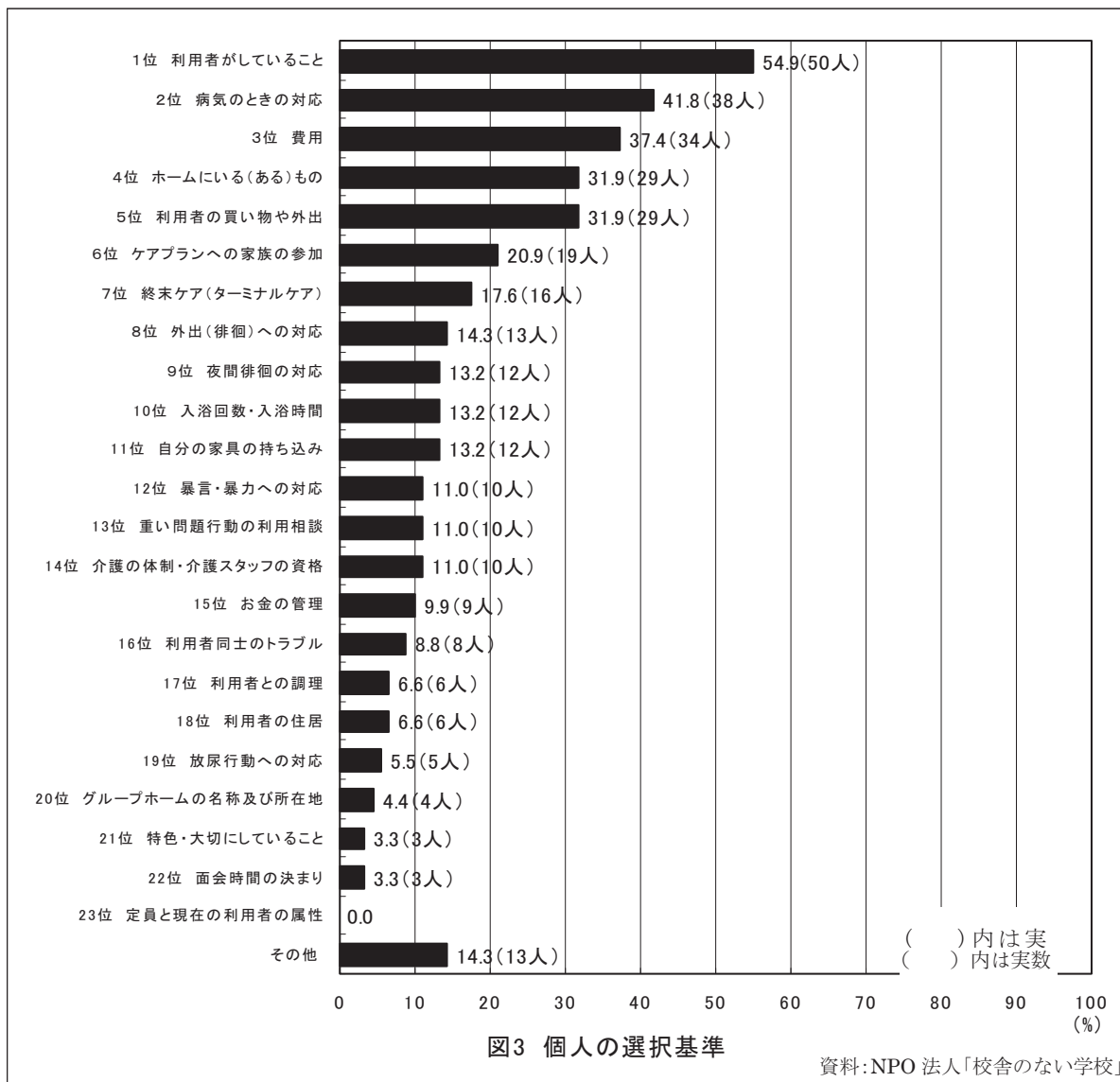
参加者は例えば、（ア）と回答したグループホームを選択したければ、その項目で（ア）と回答した全てのグループホームをパソコンとCDを用いて、一瞬にして知ることができる。こうして参加者は、検出されたいくつかの候補の中から、順次、次の項目（選択肢）を入力していき、最終的な候補にたどり着くことができるようになっている。

### 4. グループホーム選択の基準（1）個人の選択基準

グループワークに参加した97人は、15のグループに分かれた。各参加者は23の選択基準から自分が重要と思う4つを選択した。以下は、その結果である。15のグループのうち14のグループについては自らの選択基準を示した1人当たり4枚の紙（6人のグループなら24枚）が回収されたが、1つのグループからは回収ができなかった。そこで、以下では14のグループ91人の選択基準をもとに分析を進める

ことにしたい。

- 1) グループワーク参加者で、自らの選択の基準（求められた基準の数は4つ）を記入し、それを回収できた人の数は91人であった（回収率93.8%）。
- 2) 1人当たり4つの選択基準を選ぶように指示されていたが、実際には91人の参加者が選んだ「グループホームの選択基準」の総計は351であった。1人当たり平均3.9の基準が出されたことになる。
- 3) 91人から出された総計351の基準の内訳は図3の通りである。



参加者が選んだ上位5つの基準をもとに、「自分が安心して暮らせるグループホーム」をイメージしてみると、以下のようなになるだろう。

- (1) まず第一に、自分のしたいこと、興味のあること、趣味など（例えば旅行、外出、園芸、映画を観るなど）ができるグループホームである。
- (2) 次に、病気になったときに、適切に対応してくれるグループホームである。
- (3) さらに、費用の点で、支払い可能なグループホームである。
- (4) しばしば、外出や買い物に行ける、あるいは自分が好きなときに外出や買い物ができるグループホームである。

(5) ホーム内外の環境として、自分の好きな動物(犬や猫)がいたり、周囲の自然が豊かであったり、気軽に散歩や外出ができる立地や環境にあるグループホームである。

少し言い方を変えてみよう。グループワークの参加者は、「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」ための4つの基準を示せと言われたら、

(1) 半数以上の人(54.9%)が4つの基準の中に「利用者がしていること」、すなわち、自分のしたいこと、興味のあること、趣味などのできるグループホームを挙げる。

(2) およそ4割の人(41.8%)が4つの基準の中に「病気のときの対応」を挙げる。

(3) およそ3分の1の人(37.4%)が4つの基準の中に「費用」を挙げる。

(4) およそ3割の人(31.9%)が4つの基準の中に「利用者の買い物や外出」を挙げる。また同率で「ホームにいる(ある)もの:ホームにいる動物やホームにある植物、あるいはホームの周辺の自然環境や外出や買い物の便利さ」を挙げる。

4) ここで、項目(選択基準)の再編をしてみよう。

(1) 順位で2位の「病気のときの対応」と7位の「終末ケア(ターミナルケア)」を一つにまとめると、52人がこの基準を選択したと言える。こうすると、この項目は実数でも、割合でも1位となる。

(2) 「放尿行動への対応」、「外出(徘徊)への対応」、「利用者同士のトラブル対応」、「暴言・暴力への対応」、「夜間徘徊の対応」の5つを「種々の問題行動への対応」として、ひとつの範疇にまとめると、48人がこの基準を選択したことになる。

こうした項目の再編後の選択基準(計18)の順位は図4の通りである。

## 5. グループホームの選択基準(2) グループとしての選択基準

グループワークの参加者97人は、それぞれ6人あるいは7人の全15グループに分かれて、「グループとしての選択基準」を討議した。各グループの成員は、あらかじめ4枚の紙を配られて、自ら住みたいと考えるグループホーム選択の4つの「基準」を紙に書きだした。6人のグループであれば24枚の紙が机上に並ぶことになる。この24枚の紙をもとに全員が「グループとしての4つの選択基準」を確定する作業を行った。参加者は自分の選んだ基準と他人の選んだ基準を比較・検討するなかで、改めて「自分にとって安心して暮らせるグループホーム」とは何か、を考える機会を持つことになった。グループでの検討で4つの基準にしぼるには、ある程度分類項目をしぼった方が都合がいいと思われる。そこで、「病気のときの対応」と「終末ケア」を一つの項目(基準)にまとめ、さらに、「放尿行動への対応」、「外出(徘徊)への対応」、「利用者同士のトラブル対応」、「暴言・暴力への対応」、「夜間徘徊の対応」の5つを「種々の問題行動への対応」として一つの項目(基準)にまとめてみた。そうして整理した項目をもとにして集計した結果が図5である。集計不能だった1グループを除いた14グループの選択基準が多い順に並んでいる。

こうしてみると、グループ内での討論を経て、参加者がたどり着いた基準をもとに、14のグループが「これなら安心して暮らせそうだ」と判断したグループホームの特徴を描写すると、次のようになるだろう。

(1) 「利用者がしていること」

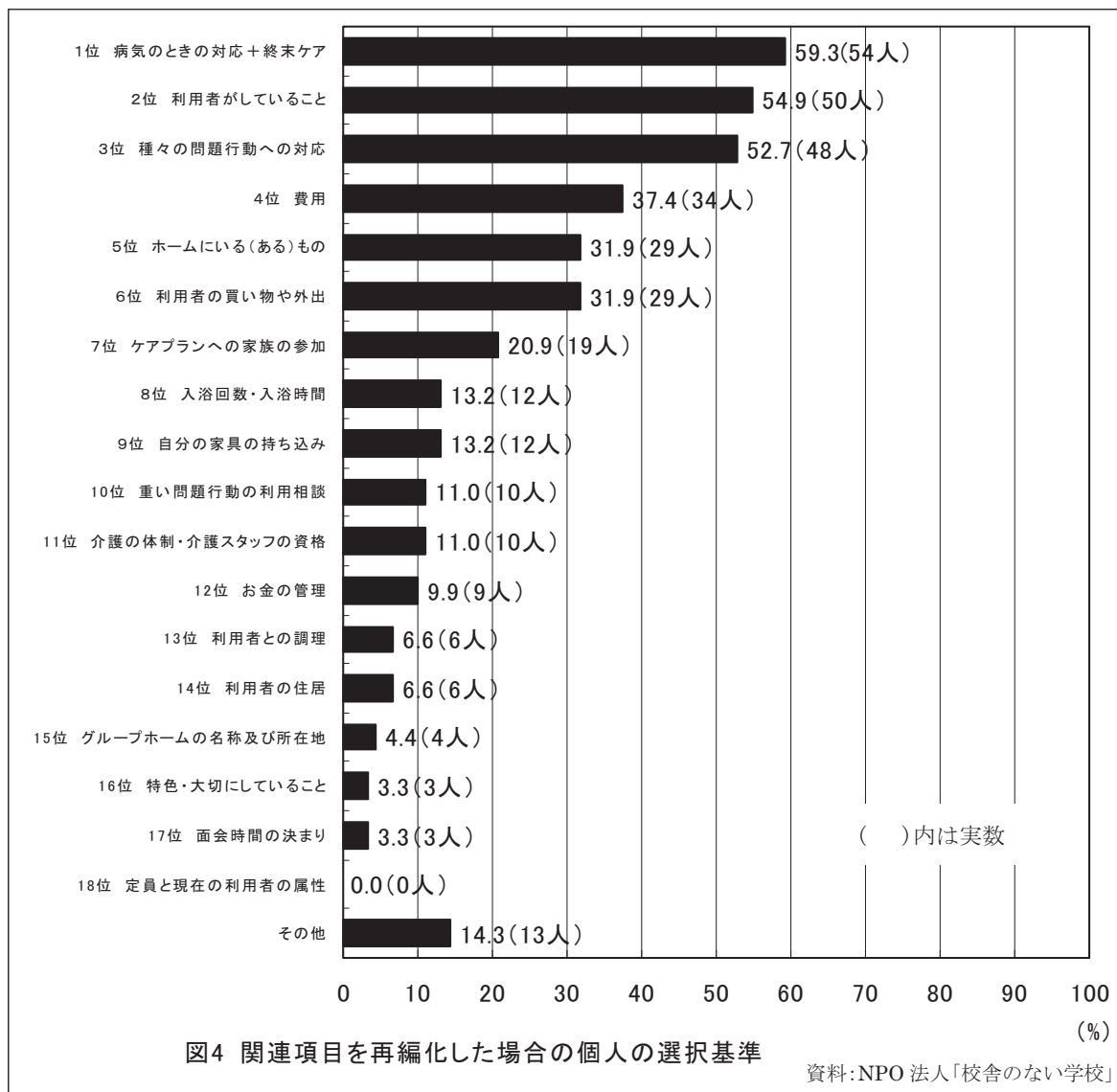


図4 関連項目を再編化した場合の個人の選択基準

まず、そこでは入居者が好きなこと、興味のあること、趣味などを行うことができる。例えば、温泉、園芸、小旅行など、自分がそれまでの生活の中で楽しんで行ってきたことが継続してできることが第1の特徴である。

(2) 「病気のときの対応+終末ケア (ターミナルケア)」

利用者が病気になったり、ターミナルケアが必要になったりしたときに、適切に対応してくれることが必要である。

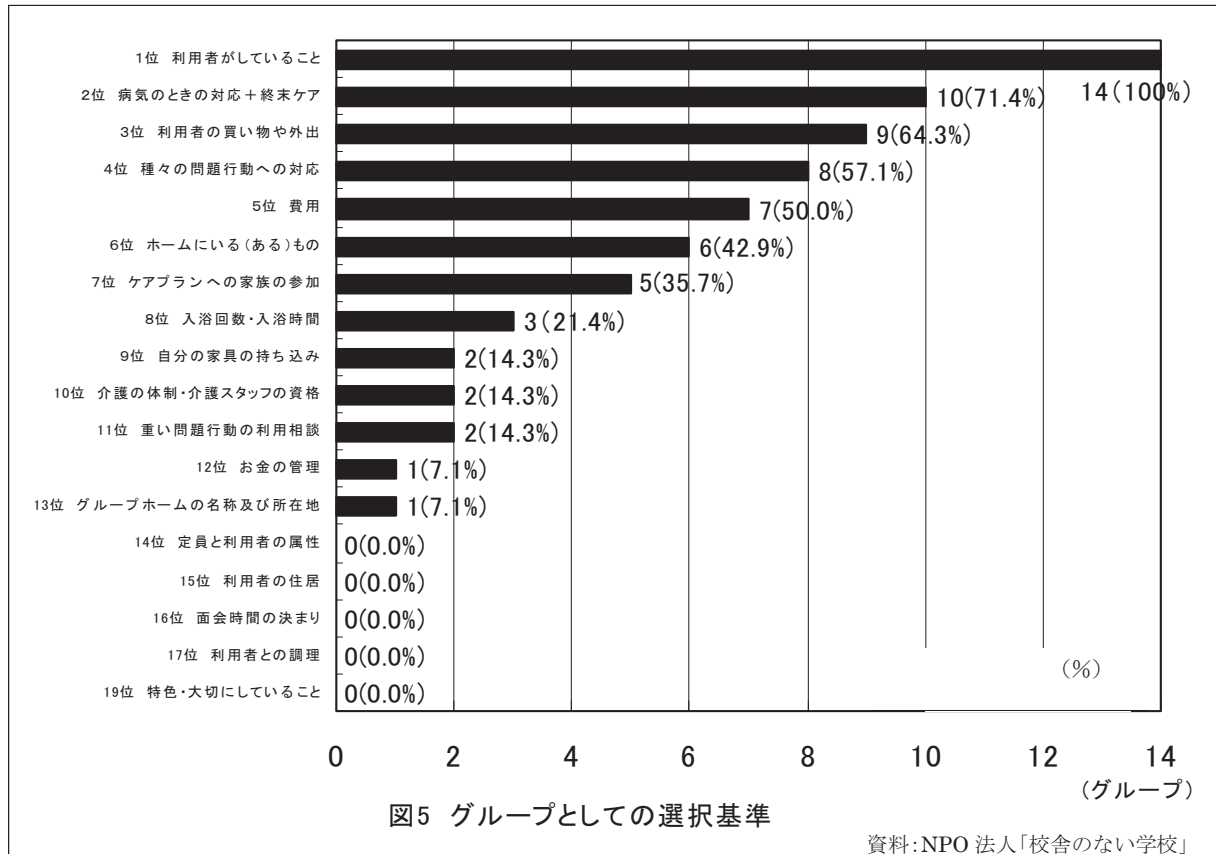
(3) 「利用者の買い物や外出」

利用者が気軽に「買い物や外出」に行けることが大切である。閉鎖的な空間になりがちなグループホームから、一歩でも外へ出て、「普通の生活」を楽しめるグループホームであることが望ましい。そのためには、それを可能にするスタッフの配置や行事計画、個人々人へのアセスメントが必要であるし、グループホームの立地条件も重要となるだろう。

(4) 「種々の問題行動への対応」

種々の問題行動に対して、適切な対応をしてくれること。ここでは放尿や暴言・暴力、あるいは夜間徘徊などのいわゆる問題行動に対して、家族ではできないが、専門の介護職だから可能な適切な対応が期待されている。





(5) 「費用」

利用者あるいは家族の支払い可能な費用範囲内であること。ちなみに、グループワークで14のうち7つのグループから出された毎月の費用の上限枠は、多様であった。10万円というものから、15万円までが多く、場合によっては、それ以上のものもあった。

6. 個人の選択基準と集団の選択基準

個人の選択基準と集団の選択基準の対応を比較してみよう。再編後の18項目中上位6項目の対応関係は表2のようになる。

表1 個人と集団における選択基準(項目)の比較

順位	個人の選択基準・項目 (n=91)	割合	順位	集団の選択基準・項目 (n=14)	割合
1位	「病気の時の対応+終末ケア」	59.3%	1位	「利用者がしていること」	100%
2位	「利用者がしていること」	54.9%	2位	「病気のときの対応+終末ケア」	71.4%
3位	「種々の問題行動への対応」	52.7%	3位	「利用者の買い物や外出」	64.3%
4位	「費用」	37.4%	4位	「種々の問題行動への対応」	57.1%
5位	「ホームにいる(ある)もの」	31.9%	5位	「費用」	50.0%
	「利用者の買い物や外出」		6位	「ホームにいる(ある)もの」	42.9%

(1) 個人と集団で、選択肢が大きく異なるということはない。上位6つの基準は、全て個人と集団のどちらにも含まれている。個人でも集団でも、グループホーム選択の基準はかなり共通しているといえよう。

(2) 集団で議論した効果について言及しよう。

① 「利用者がしていること」を14全ての集団が重要基準として取り上げていることは、注目に値する。グループホームにおける生活が楽しく、豊かなものになるためには、他のどの基準よりも「そこで好きなこと、興味のあること、趣味などができること」が選好されている。参加者がグループホームを、「生活の質」を追求する「生活の場」として構想していることを窺わせる。

② 同じく「利用者の買い物や外出」も個人の選択基準よりも順位が上がっている。グループワーク参加者は、買い物や外出の機会を通して、「認知症があっても普通の生活」ができることをグループホーム選択の大きな基準としていると考えられる。

すなわち、グループワークを通して、人々は「ホームに入ってから、自分らしく、楽しい生活」を実現することに努力しているグループホームへと選好の重点を移してきたと考えられる。

③ 「病気のときの対応+終末ケア」、「種々の問題行動への対応」及び「費用」の3項目は、個人の場合より集団の場合の方が順位を落としている。3つはそれぞれ、個人の基準では1位、3位、4位であったが、集団の基準では、それらはそれぞれ2位、4位、5位へと1つずつ順位が落ちている。これら、3つの項目(基準)は、全てグループホームへの入所、そこでの生活にとって基本的に必要、あるいは必須の条件である。いわば、グループホーム選択の「必要条件」であるといってもよいだろう。こうした項目が上位6つの選択基準として、個人の場合も集団の場合も含まれていることが、それを物語っている。病気の時に適切に対応できないグループホームや、入所者の問題行動に対処できないグループホームは、参加者が最も選びたくないところである。「費用」も大切な要件であり、どんな人でも、支払い可能な範囲のグループホームしか選択できない。

グループワークの参加者は、一方でこうしたいわゆる「必要条件」の大切さを十分に認識していながらも、他方で「入居してからの生活の質、すなわち、そこでどんな自分らしい生活が実現できるか」に大いに注目していると言えるだろう。

## 7. 「費用」という基準

各グループは、それぞれ4つの、グループとしての選択基準を確定したことはすでに述べた。各グループはこれらの4つの基準に優先順位をつけている場合が多い。それは、「安心して暮らせるグループホーム」を実際にパソコンとCDを使って検索するためである。

14のグループがどのような基準に第1の優先順位をつけたかを示したものが表2である。

表2 集団における選択基準のうち、第1の基準として選ばれた項目（基準）

項目（基準）	その項目を選択したグループ数 (n=14)
「費用」	7 (50.0%)
「利用者の買い物や外出」	2 (13.3%)
「病気のときの対応+終末ケア」	1 (6.7%)
「グループホームの名称及び所在地」	1 (6.7%)
「介護の体制・介護スタッフの資格」	1 (6.7%)
「利用者のしていること」	1 (6.7%)
不明	1 (6.7%)
計	14 (100.0%)

4つの基準の中で、「費用」を第1の基準にあげたグループが半数の7にもものぼる。その次の基準が、「利用者の買い物や外出」であり、それを選んだグループは2つである。1位と2位では大きな差がある。「費用」はやはり、極めて重要な選択基準である。「費用」を基準に入れた7つのグループは、7つともがこれを第1の基準として採用していた。換言すれば、これら7つのグループは、「自分が安心して暮らせるグループホーム」を検索する際には、まず第1に「費用」条件（例えば、毎月の費用が13万円以下であるとか）を設定し、さらに、その条件にあった幾つかのグループホームの中から、第2の基準を設定し、さらにその中から第3の基準を設定する…という作業を行った。

ここでは、「費用」を第1の選択基準とした7つのグループが、どのような検索過程を経て、そのような結論にたどり着いたかを示したい。

7つのグループのうち、はじめに設定した「費用」基準をクリアし、なおかつ残りの3つの基準もクリアしたところは4グループあった。うち、3つのグループは「費用」の条件を上昇させていっている。費用の上限を上げなければ他の3つの基準まで進めないからである。例えば、あるグループでは、毎月の費用を最初の10万円から12万円に上げている。7つのグループのうち、「費用」基準はクリアしたが、残りの3つの基準がクリアできなかったグループが2つあった。うち、1つのグループの検索過程を示すと次のようになる。第1の基準で「毎月の費用」を15万円以下に設定し、第2の基準には、「終末ケア（ターミナルケア）」が可能なホームを検索すると、8つのグループホームが候補として残った。しかし、第3の基準である「種々の問題行動への対応」では、希望するグループホームはゼロとなった。そこで、第4の基準たる「趣味や好きなことのできるグループホーム」まで検索できなかった。ここから分かることは、「費用」という基準は重要ではあるが、それだけでは、「自分が安心して暮らせるグループホーム」にたどり着けないということである。あるグループの言葉を借りれば、「費用を最も重要な基準にすれば、「趣味」までは進めませんでした。ホームに入って自分の好きなことを大切にしたいと思えば、費用の基準を少し緩めなくてはなりませんでした。」「お金の条件だけに絞って、自分のしたいことのできるグループホームを探せませんでした…。」

こうした検索においては、いったんあるひとつの基準によって切り捨てられたグループホームは、その他の条件がどんなによくてもそれ以降の選択の対象にはならない。複数の視点を持ち、バランスのとれた選択基準を持って、辛抱強く検索をしていかないと、「隠れた優れたグループホーム」を逃してしまうことになる。

## 8. おわりに

本稿では、ある認知症ケアセミナーで行われたグループワークの中で、参加者がどのような基準で「自分が安心して暮らせるグループホーム」を探すかを分析した。分析結果は見てきた通りである。最後に、以下の4点について述べておきたい。

### 1) NPO等が主催する認知症ケアセミナーの意義

NPO法人による認知症ケアセミナーは、行政の主催するものと異なった特徴と意義がある。それは、NPO法人は、その法人がねらいとするテーマ、分野に特化して深く掘り下げた研究・研修を行うことが可能ということである。

このグループワークにおいては、パソコン・CDを用いて「自分の住みたい条件を備えたグループホームを探す」ことがテーマになった。参加者は、このことに関心のある介護専門職が多く、専門家としてと同時に、一人の生活者として「自分の暮らしてみたいグループホーム」の基準を改めて考察する機会を得た。グループワークを通して、参加者は自分の基準に適合するグループホームの及び適合しないグループホームの固有名詞まで知ることができた。行政主催のセミナーなどではここまで個々のグループホームの固有名詞の判明する作業を行うことは通常きわめて困難である。

### 2) 行政との連携

岐阜県（介護支援室）は、このセミナーの後援を行っている。よく指摘されるNPOと行政の連携の必要性和有効性を示す例であろう。

### 3) 専門職の人々の判断基準の意味するもの

グループワークの参加者は、8割以上が介護専門職であった。これらの人々が、個人として、あるいは集団として決定した「自分が安心して暮らせるグループホーム」選択の基準は、一般の人々の選択の基準を先取りしていると考えられる。介護専門職の人々は、日頃の業務から、グループホームでの入居者の生活、働く人々の抱える問題などを一般の人たちより、はるかに詳しく知っている。そして、日頃から「自分の住みたいグループホーム」「自分が働いてみたいグループホーム」「自分が運営してみたいグループホーム」を思い描く機会に恵まれている。

専門職の人々の考える「グループホーム選択の基準」は、一般の人々のそれより、より具体的で的確であると想定される。一言で言えば、ポイントをついているといえよう。一般の人々が気づけない重要な視点を持ちうると言えるだろう。換言すれば、一般の人々も、グループホームの内実を詳しく知れば、介護職の人々が示した基準の重要性に気づくだろうと思われる。

さらに、先述したように、専門職の人々は視点の転換を迫られた。専門職としてではなく、一人の個人として「自分が安心して暮らせるグループホームを探す」作業を実際に行ってみて始めて気づかされることもあったはずである。専門職であっても、あるいは専門職であればなおさら、「自分ならどのようなグループホームを選ぶか」について徹底した考察をしておくことが必要であるだろう。そうすることによって、より一層「利用者の立場に立った」仕事が遂行できよう。日頃何気なく、業務として行っていたグループホームでの作業にも、ケアマネージャーとしての仕事にも、新たな視点が加わることになるだろう。

### 4) 「生活の質」の探求

最後に、本文中にも述べたが、参加者のグループホーム選択基準が、集団での討議を経るにしたがって、「グループホーム内での生活の質」にシフトしていったことに注目したい。そこでは、「認知症に

なっても自分らしい生活ができること」「自分の好きなことや、興味のあることをグループホームの中でも続けたい」「ホームに入っても買い物や外出などを楽しみたい」といった基準が、重視されていた。費用や病気への対応といった重要な基準に目配りしながらも、こうした「生活の質」を求めるベクトルの力が大きくなっていったのである。これは、今後のグループホームのあるべき姿、進むべき方向を、たしかにあらわしていると言えるだろう。

## 参考文献

- 厚生労働省『平成17年版 厚生労働白書』2005年  
厚生労働省『平成16年版 厚生労働白書』2004年  
内閣府『平成17年版 高齢社会白書』2005年  
内閣府『平成16年版 高齢社会白書』2004年  
内閣府『平成16年版 国民生活白書』2004年  
WAMNET <http://www.wam.go.jp>  
岐阜県のグループホーム情報開示ホームページ  
[http://www.pref.gifu.lg.jp/community/com999998000021\\_top.html](http://www.pref.gifu.lg.jp/community/com999998000021_top.html)  
厚生労働省ホームページ <http://www.whlw.go.jp>  
総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/>  
小澤勲『認知症とは何か』岩波書店, 2005年  
小宮英美『痴呆症高齢者ケア』中央公論社, 1999年  
痴呆症老人ケア研究会・特別養護老人ホームサンビレッジ新生苑 編『DFDLによる痴呆性老人生活対応マニュアル』中央法規出版, 1996年  
小林月子・田草川祐輔『グループホームと情報公開—岐阜県で安心して暮らせるグループホームを探すには—』岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第54巻1号 2005年  
小林月子『痴呆性高齢者の介護とグループホームの役割—外部評価を手がかりとして—』岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第53巻2号 2005年

資料

『認知症ケアセミナー ～安心して暮らせるグループホームを探そう～』

# グループホーム情報開示 アンケート

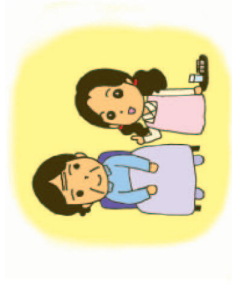


- 2005年12月3日(土)
- ソフトピアアジャパン 10階大会議室

ふるさと福祉村・西濃 NPO法人校舎のない学校

## アンケート項目一覧

- グループホームの名称及び所在地
- 費用
- 定員と現在の利用者の属性
- 利用者の住居
- 介護の体制・介護スタッフの資格
- 直会料等の決まり
- 重い障害行動の利用相談
- 自分の家員の持ち込み
- 利用者との難題
- 放尿行動への対応
- 入浴回数・入浴時間
- 外出(徘徊)への対応
- お金の管理
- 利用者同士のトラブル対応
- 利用者の買い物や外出
- 暴言・暴行への対応
- 夜間徘徊への対応
- ケアプランへの家族の参加
- 病気の時の対応
- 終末ケア(ターミナルケア)
- ホームにいる(ある)もの
  - ホームにいる動物
  - ホームにある植物
  - 周辺の自然環境
- 利用者がしていること
  - 園芸
  - 料理
  - 手芸
  - スポーツ
  - 音楽
  - 演芸
  - 趣味
  - 旅行
  - あそび
  - 文芸
  - 飲茶の楽しみ
  - 外出
  - 整容
  - 地域との交流
  - 家族との交流
  - その他(特徴のあるもの)
- 特色・大切にしていること



# アンケート内容

## 1. グループホームの名称及び所在地

- (1) 名称 : \_\_\_\_\_  
 (2) 所在地 : 岐阜県 \_\_\_\_\_ から徒歩 \_\_\_\_\_ 分  
 (3) 交通 : 最寄りの駅やバス路線・バス停 \_\_\_\_\_

## 2. 費用

- (1) 利用にあたって当面必要な額  
 要 ⇒ 金額 \_\_\_\_\_ 円 → 返還される金額  
 不要 ⇒ \_\_\_\_\_ 円  
 ①保証金 { 要 ⇒ 金額 \_\_\_\_\_ 円 / 不要 ⇒ \_\_\_\_\_ 円 }  
 返還される金額 ⇒ 全額 / その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 ②寄付金・協力金 (返還されない)  
 ③その他 (具体的に) \_\_\_\_\_ 円 → 返還される金額  
 返還される金額 ⇒ 全額 / その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 ・名目 ( \_\_\_\_\_ )  
 金額 \_\_\_\_\_ 円  
 返還される金額 ⇒ 全額 / その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 ・名目 ( \_\_\_\_\_ )  
 金額 \_\_\_\_\_ 円  
 返還される金額 ⇒ 全額 / その他 ( \_\_\_\_\_ )
- (2) 毎月の経費 (円)

項目	金額
家賃	_____
食費・食材費	_____
光熱・水道費	_____
介護報酬の1割	_____
管理・共益費・他	_____
利用者負担計	_____

## 3. 定員と現在の利用者の属性 (2005年1月31日現在)

(1) 定員と現在の利用者属性 (人)

定員	現在の入居者	定員	現在の入居者
_____	_____	_____	_____
うち	うち	うち	うち
男性 _____	男性 _____	男性 _____	男性 _____
女性 _____	女性 _____	女性 _____	女性 _____

(2) 現在の利用者の要介護度 (3ユニットある場合)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
_____人	_____人	_____人	_____人	_____人

## (2) 現在の利用者の要介護度

(2) 現在の利用者の要介護度 (3ユニットある場合)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
_____人	_____人	_____人	_____人	_____人

(3) ユニットある場合

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
_____人	_____人	_____人	_____人	_____人

## 4. 利用者の住居

個室	部屋数	広さ
・和室 _____ ・洋室 _____	_____	_____ 畳 ~ _____ 畳
2人部屋 _____ ・和室 _____ ・洋室 _____	_____	_____ 畳 ~ _____ 畳

## 5. 介護の体制・介護スタッフの資格

(※同一人物が複数の資格を有する場合は重複してカウントしてください)

- (1) 介護職員の数  
 常勤 \_\_\_\_\_ 人 } うち痴呆ケアの経験3年以上の人の数  
 非常勤 \_\_\_\_\_ 人 } 資格 \_\_\_\_\_ 人
- (2) 資格  
 ケアマネジャー ( \_\_\_\_\_ ) 人 ヘルパー2級 ( \_\_\_\_\_ ) 人 介護福祉士 ( \_\_\_\_\_ ) 人  
 その他 資格名 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) 人

以下の質問について、貴グループホームで実際にやっていること（もっとも近いもの）を1つ選んでください。

### 6. 面会時間の決まり

● 家族や知人などが利用者を訪ねる際、面会時間や曜日が決まっていますか？

ア. 決まっている

・曜日：	_____	・時間：	_____時_____分から_____時_____分まで
・時間：	_____時_____分まで		

イ. とりたてて決まっていない  
ウ. 家族等が面会に来ると入居者の里心がつくので、面会はできるだけ控えてもらう

### 7. 重い問題行動の利用相談

● 認知症（痴呆症）に伴う問題行動（行動障害）が深刻な人の利用相談を受けた場合どう対応していますか？（複数回答可）

ア. 事前調査に行って、その結果で判断する

イ. その場で丁重にお断りする

ウ. ために利用してもらう

エ. 定員に余裕があるので利用してもらう

オ. どれも深刻な問題行動（行動障害）を持つ人でも受け入れられる方針だから受け入れる

### 8. 自分の家具の持ち込み

● 利用者はそれぞれ家で使っていた家具や持ち物をホームに持ち込んでいますか？

ア. 作りつけの家具があるので、持ち込まなくてもよい

イ. 持ち込んでいる

ウ. 持ち込むスペースがない

### 9. 利用者との調理

● 食事を利用者と一緒に作りますか？

ア. ときどき一緒に作っている

イ. 一緒に作ることはほとんどない

ウ. よく一緒に作っている

### 10. 放尿行動への対応

● あらこちで放尿する人に対して、どのように対応していますか？

ア. 利用者が臭やすいように大きなトイレ用の標識を掲示する

イ. 必要に応じておむつをつけてもらう

ウ. 根気よく誘導する

エ. その他（具体的に）\_\_\_\_\_

### 11. 入浴回数・入浴時間

● 1週間あたりの入浴回数と入浴時間を教えて下さい

・ 1週間あたり \_\_\_\_\_回  
 ・ 入浴時間 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分から \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分まで

### 12. 外出（徘徊）への対応

● 外出したら一人では帰ってこられない利用者はどう対応していますか？

ア. 本人の名前や所在がわかるように名札をつける

イ. やむを得ず、建物に鍵をかける

ウ. 本人が落ち着くまで、やむを得ず葉を使う

エ. 本人の関心を他に向ける

オ. やむを得ず、退所してもらう【または他の施設（特別介護老人ホーム・老人保健施設）を紹介する】

カ. その他（具体的に）\_\_\_\_\_

### 13. お金の管理

● 利用者のお金をどのように管理していますか？

ア. 利用者がお金をなくすといけいけいから一律に預かっている

イ. 本人の管理能力によっては利用者へ管理してもらう

ウ. お金を使う機会がないので、持たせていない

エ. その他（具体的に）\_\_\_\_\_

### 14. 利用者同士のトラブル対応

● 利用者同士が口論・ケンカをしたとき、どのように対応していますか？

ア. トラブルのもとをつくった人を別室に移す

イ. 他の施設に移ってもらう

ウ. 場面を変えて、当人たちの気をそらす

エ. トラブルのもとをつくった人は、今後のこともあるので、よくさすとす

オ. その他（具体的に）\_\_\_\_\_

### 15. 利用者の買い物や外出

● 利用者はどのくらい外出したり、買い物したりしていますか？（散歩は除く）

ア. 利用者に危険があるといけないので、職員が買い物等の代行をしている

イ. 1ヶ月に1～2回

ウ. 週に1～2回

エ. ほとんど外出の機会がない

オ. その他（具体的に）\_\_\_\_\_



## 20. 終末ケア（ターミナルケア）

● 利用者の心身の状態が悪化して、終末ケア（ターミナルケア）が必要になったらどう対処しますか？

- ア. グループホームで終末まで看とる  
 イ. 抱擁している入居施設で受け入れる（特別養護老人ホーム、病院等）  
 ウ. 終末期になると利用者は寝たきりになるので、家族に帰す  
 エ. 自宅で見取りたいと希望する家族には、在宅サービスを利用して介護できるように指導し、家族のもとに帰す  
 オ. その他（具体的に） \_\_\_\_\_

21. 貴ホームには、現在どのような植物・動物がいますか？また、ホームの中や近くに自然がありますか？

（？）あてはまるものすべてに回答してください。

- (1) ホームにいる動物  
 ・犬・猫・ウサギ・カメ・金魚や熱帯魚・やぎ・ひつじ  
 ・ニワトリ・クジャク・その他（ \_\_\_\_\_ ）
- (2) ホームにある植物  
 ・観葉植物・盆栽・鉢植え・プランター・庭木  
 ・その他（ \_\_\_\_\_ ）
- (3) 周辺の自然環境  
 ・庭・公園・田・畑・林・その他（ \_\_\_\_\_ ）

22. 貴ホームの利用者はホームでどんな得意なこと、好きなことをしていますか？

（？）どんなことであれば入居してからも続けてすることがありますか？

- (1) 園芸：野菜作り、野草摘み、草とり、盆栽、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (2) 料理：得意料理作り、漬物作り、梅酒作り、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (3) 手芸：編み物、キルト、ミシンがけ、パッチワーク、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (4) スポーツ：ゲートボール、卓球、グラウンドゴルフ、ダンス、散歩、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (5) 音楽：コーラス、三味線、大正琴、ピアノ、オルガン、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (6) 演芸：カラオケ、観劇、映画、ビデオ、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (7) 趣味：陶芸、活け花、茶道、書、絵画、絵手紙、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (8) 旅行：温泉、お宮参り、花見、紅葉狩り、イチゴ狩り、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (9) あそび：マージャン、囲碁、将棋、カメラ、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (10) 文芸：俳句、短歌、朗読、時事通信、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (11) 飲茶の楽しみ：コーヒー、お酒、紅茶、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (12) 外出：買い物、理・美容院、レストラン、ゴルフ場、居酒屋、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (13) 整容：化粧、おしやれ、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (14) 地域との交流：ファミリーデー、実習生の受け入れ、地域での認知症（痴呆症）介護の研修  
 幼種園児との交流、小・中学生との交流、回覧板、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (15) 家族との交流：家族と一緒に外出、誕生会、ホームのボランタニア、その他（ \_\_\_\_\_ ）  
 (16) その他（特徴のあるもの）： \_\_\_\_\_

23. ホームで大切にしていること、特色等をお書きください

## 16. 暴言・暴力への対応

● 利用者が暴言・暴力をふるうとき、どのように対処しますか？

- ア. 暴言・暴力が直るまで、別室に入ってもらおう  
 イ. そういおうがままを許せば他の利用者の迷惑になるので退所してもらおう  
 ウ. 殴られた相手の痛みを理解してもらうために、痛みを体験してもらおう  
 エ. ケースによっては医師の診察をうけさせる  
 オ. その他（具体的に） \_\_\_\_\_

## 17. 夜間徘徊の対応

● 夜間ホーム内をうろちろして他の利用者の安眠を妨げたり、不安がらせたりする人にどう対処しますか？

- ア. やむを得ず居室に鍵をかける  
 イ. 夜間転倒して怪我をしないといけないから落ち着くまでベッドにゆるく縛っておく  
 ウ. 症状が落ち着くまで薬（睡眠薬）を飲ませる  
 エ. 取り立てて制止せず、見守る  
 オ. その他（具体的に） \_\_\_\_\_

## 18. ケアプランへの家族の参加

● ケアプランをたてる時、家族の意見を入れますか？

- ア. 家族に意見等を聞くと、家族をわずらわせることになるのでなるべく聞かないようにしている  
 イ. 家族の意見には無理な要求が多いので、あまり取り入れていない  
 ウ. 意見を取り入れようとしているが、家族に呼びかけても家族はあまり意見を言っていないので取り入れていない  
 エ. 家族の意見を参考にしている

## 19. 病気の時の対応

● 利用者が病気になったとき、どう対応していますか？

- ア. できるだけ早く家族に連絡して、診察・治療に参加してもらおう  
 イ. できるだけ早くホームで対応するが、他の医療機関での診察が必要になった場合は家族に連絡する  
 ウ. 家族に心配をかけたくないので、地域のそれぞれの専門機関と連携して対応する  
 （開業医・在宅サービス等）  
 エ. その他（具体的に） \_\_\_\_\_

